

## 論文の内容の要旨

論文提出者氏名	百 武 愛 子
論文審査担当者	主 査 福嶋 義光 副 査 駒津 光久・小池 健一
論文題目	Cross-sectional Observation of the Relationship of Depressive Symptoms with Lifestyles and Parents' Status among Japanese Junior High School Students (中学生の抑うつ症状と生活習慣・保護者の状態との関連に関する横断研究)
(論文の内容の要旨)	<p><b>【目的】</b></p> <p>中学生の抑うつ症状には中学生自身の要因と保護者の状態が関連している可能性がある。本研究は中学生の生活習慣、保護者の精神状態及び社会人口学的特徴と、中学生の抑うつ症状との関連について検討することを目的とした。</p> <p><b>【対象と方法】</b></p> <p>対象は、ある中学校に在席する生徒 477 名とその保護者である。中学校の了解を得て、調査協力を依頼した。生徒へは、抑うつ傾向、身長、体重、主観的ストレス、体型への満足度、生活習慣（睡眠時間、体育の授業以外の身体活動等）、栄養素摂取状況について、保護者へは、抑うつ、社会人口学的特徴について自記式質問紙法にて回答を得た。統計解析は IBM Statistics SPSS ver. 22.0 により行った。本研究は信州大学医学部医倫理委員会の承認を得て行った。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>409 名 (85.7%) の生徒と 314 名 (65.8%) の保護者から同意が得られた。生徒と保護者両方のデータが揃ったのは 241 名であった。抑うつ症状を有すると判定された生徒の割合は 24.9%であった。抑うつ症状を有する生徒は、抑うつ症状のない生徒と比べ、ストレスを感じている者の割合が高く、睡眠時間が長いまたは短い者の割合が高かった。エネルギー・栄養素摂取量については、エネルギー摂取量のみ差が見られ、抑うつ症状が有る群はない群と比しエネルギー摂取量が少なかった。多重ロジスティック回帰分析の結果、性別、主観的ストレス、体育の授業以外での運動の頻度、保護者が抑うつ症状を有することが、生徒の抑うつと関連していた。</p> <p><b>【結論】</b></p> <p>中学生のストレスを低減させること、生活習慣、特に体育の授業以外での身体活動量の頻度を増やすことが、中学生のメンタルヘルスにおいて有用である可能性がある。また、保護者のメンタルヘルスは生徒のメンタルヘルスに関連があることが示唆された。</p>